

## 特集にあたって

福田正人\*

本特集「精神科臨床・パール―先達に学ぶ」は、『精神医学』誌の2冊目の増大号です。

昨年刊行した初めての増大号では、「精神科診療のエビデンス―国内外の重要ガイドライン解説」を特集しました。最近の精神医学の発展にもとづくエビデンスは、ガイドラインという形で精神医療に生かされています。そうした重要なガイドラインを解説した特集は、幸いに好評をいただくことができました。少しでも臨床のお役に立つことができたのであれば、増大号刊行の趣旨が生きたことになります。

それを受けた2冊目の企画として、いくつかの案のなかで編集委員全員の意見が一致したのが、本特集「精神科臨床・パール―先達に学ぶ」でした。ベテランの先生方から、臨床の長いご経験やご自身の深い研究にもとづく先達の知恵をお伺いしたいという、多くの読者の希望を反映した特集です。

エビデンスは、定められた手続きにもとづいて明らかになり、一般的な知識として確立されていきます。しかしそのエビデンスの内容は、個別の臨床経験から出発したものです。日常の臨床に隠れている大切な知恵を、ベテランが慧眼で見つけ出したもの、それが「臨床・パール」です。個別の経験から出発する特殊な発見である臨床・パール、疫学や統計や研究から明らかとなる一般的で普遍的なエビデンス、そうした「個別と一般」が臨床の真理についての私たちの認識の全体です。「特殊と普遍」が互いに影響を与え合うなかで、臨床は発展していきます。

多くのベテランの先生方から、いつまでも心に留めておきたい素晴らしい原稿をお寄せいただくことができました。その文章から教えていただけるのは、「名人芸とは基本に忠実ということ」、「精神科臨床とは人と人のかかわりを通した人生支援である」、「大切なことほど隠れて見えなくなる」、そうした臨床・パールだと感じています。読者の皆さまにとって、大切な学びのある特集でありますように。

\* 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学(☎ 371-8511 群馬県前橋市昭和町 3-39-22)